

ワークショップ (WS) のご案内

(参加登録が必要です。一部は当日参加可能です)

4月14日(月) 12:00～4月16日(水) 12:00の間は正会員のみ登録ができます。会員番号の入力が必須となります。4月21日(月) 12:00～5月24日(土) 23:59は、どなたも登録可能です。

ワークショップ一覧

8月30日(土) 9:10-11:40

WS 申込番号	テ ー マ	リーダー	定員
WS-01	むきぐせ、反りぐせ、はいはいしないを解決する 乳幼児の姿勢運動発達の質的評価と介入法	山田紳一智	30 (20)
WS-02	小児科外来でのきょうだい関係における諸問題への対応	荒川 明里	24 (12)
WS-03	医療と教育の連携	秋山千枝子	24 (12)
WS-04	いなか小児科医の求める「学び」について考えよう	橋本 裕美	20 (12)
WS-05	子どもの姿勢について ～小児科医、整形外科医、理学療法士の視点から考える指導方法～	千葉 智子	24 (12)
WS-06	小児科外来のトリビアをみんなで共有しませんか?	日高 啓量	36 (6)
WS-07	子どもの貧困に気づき支援するために part9	和田 浩	24 (10)
WS-08	「他所はどうしている?」うちではこのように予防接種しています。Part3	中村 豊	20 (10)
WS-09	親と子への服薬支援 その9 ～舌下免疫療法のアドヒアランス向上のために～	上荷 裕広	30 (5)
WS-10	心理職の事例から考える小児科診療所における子どもの心の支援(1)	芦谷 将徳	30 (15)
WS-11	患者さんへの情報発信どうしていますか?平成は手渡しリーフレット、令和はSNS?	田中 秀朋	30 (15)
WS-12	育ちの背景から考える親子支援	松原 徹	50 (10)

8月31日(日) 8:30-11:00

WS 申込番号	テ ー マ	リーダー	定員
WS-13	診療や1歳6か月児健診で役立つ『子どものあしとくつの基本知識と活用法』	吉村真由美	50 (25)
WS-14	吸入がうまく使用できない どのように解決していますか?	池田 貴司	24 (12)
WS-15	日本にも社会小児科学を根付かせよう	武内 一	20 (10)
WS-16	起立性調節障害の漢方治療 - QOL向上のためにできること -	森 蘭子	20 (5)
WS-17	集まれ! メディカルスタッフ♪ ～みんなで語ろう! メディカルスタッフの悩み事～ (その2)	秦 一裕	30 (5)
WS-18	タイムカードから勤怠管理ソフトへ その2	矢嶋 茂裕	24 (12)
WS-19	明日からもっとうまくなる小児科での禁煙支援	牟田 広実	16 (8)
WS-20	明日からでも実践できる診療所の小児看護 ～私の看護、みんなの看護を集めて話しませんか	二星 淳吾	21 (10)
WS-21	BLWをヒントに! 0～2歳の食行動を育む補完食支援	江田明日香	24 (12)
WS-22	受けて学んでそして活かす ～小児診療初期対応を学んで現場の力をパワーアップ～	鈴木 研史	20 (10)
WS-23	産後の女性を支えるために医療者が知っておきたいこと ～スムーズな子育てのスタートを切るために～	佐山 圭子	24 (12)
WS-24	小児科外来での家族対応を考えよう	涌水 理恵	50 (25)

★定員の()内は正会員先行枠です。

WS-01		むきぐせ、反りぐせ、はいはいしないを解決する乳幼児の姿勢運動発達の質的評価と介入法	
[リーダー]	山田 紳一智 (山田こどもクリニック)		
[筆頭サブリーダー]	有瀬 愉子 (ありたき小児科)		
<p>これまで2回のワークショップでは、乳幼児の姿勢や運動発達に関する課題、特に頭部の変形、向きぐせ、反りぐせ、這い這いの異常について、参加者と議論する機会を提供しました。特に昨年は、発達の本質の評価の必要性、さまざまな機能が繋がって発達し、対人関係や情緒発達が形成されることを座学で、また具体的な体の動きと指導法について人形を用いて学びました。参加者は乳幼児健診に長年従事されている医師が中心でしたが、乳幼児の運動発達を質的に評価するスキルの研修機会に限られている現状と、外来での具体的な指導に難しさを感じていることが明らかになりました。これまで2回を通じて、参加者が発達の本質の評価の重要性を認識し、健診場での指導助言の実践意欲を高めた点は大きな成果といえます。このワークショップの目標は、乳幼児期の姿勢運動が、運動発達だけでなく発達全般に直接的な影響を持つこと、乳幼児期だけでなく学童期あるいはそれ以降にも影響が及ぶこと、気づいた時点から適切な指導助言を行うことで、子どもの発達や生活の望ましくない循環を変えられる可能性があることについて、多くの方に認識していただくことです。</p> <p>今年のワークショップでは、昨年の成果をさらに深め、参加者が診療や健診の場で子どもや保護者に具体的なアドバイスを提供できることを目指します。</p> <p>具体的な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 乳幼児の運動発達異常の体験型学習 参加者自身が、乳幼児特有の動き(むきぐせ、反りぐせ、不規則な這い這い)を体験するプログラム。動作の再現を通じて、乳幼児がその運動を続けている背景を発達の・運動学的に考察し、姿勢をどう評価すべきか体感的に理解します。 2 実例を用いた解決方法のディスカッション 実際の症例の解決方法を話し合うグループディスカッション。例えば、保護者にどのように説明するか、適切な抱き方やTummy Timeの導入方法、家庭での関わり方の提案などを議論します。 			
開催形式	問題解決型と研修型の混合型	参加可能な職種 / その他の条件	
定員 (4/14~4/16の 正会員募集枠)	30名 (20名)	医師	
1施設あたりの申込制限	無し		
当日参加	空きがあれば可		
参加費	無料		

WS-03		医療と教育の連携	
[リーダー]	秋山 千枝子 (あきやま子どもクリニック)		
[筆頭サブリーダー]	宮田 章子 (ざわいこどもクリニック)		
<p>近年、発達の課題によって起きる集団不応答、学習困難、対人関係のトラブル等、学校生活上の悩みを抱える子どもが増え、その結果として不登校や登校しづらくなって相談に来院する子どもが増加しています。こうした状況の改善のためには医療と学校がより積極的な連携を図る必要があります。各診療所がどのように学校と連携し、問題解決をしているか共有したいと思います。</p> <p>たとえば、当クリニックでは元校長を雇用して、学校の実態を熟知している立場から助言をする役割を担う「医療教育コーディネーター」という新たな職を置いています。医療教育コーディネーターは、医師の相談診療を経た子どもや保護者との定期的な相談を行い、保護者の承諾を得た上で学校と情報共有をして、学校での様子を把握したり校長や担任と直接話をして学校の対応を検討したりします。また、次回の相談診療の際に保護者に学校での様子や聴き取ったことを伝えて、今後の方向性について医療機関と学校と保護者の意見をすり合わせるという働きをしています。連携している学校側からは、「学校のことをよくわかっている人が医療機関にいてくれるのは有効」「学校では言いにくいことも伝えてもらえる」「学校での様子も見た上で保護者に伝えてもらえる」「学校の状況を理解してもらえるので安心感がある」といった声をいただいています。保護者からも、学校との連携をしてくれていることに対してクリニックが支援者としての信頼を得られるなど、双方に有効な成果があると考えています。</p> <p>学校との連携で困難なことをグループディスカッションで話し合い、問題解決型のWSにしたいと思います。</p>			
開催形式	問題解決型	参加可能な職種 / その他の条件	
定員 (4/14~4/16の 正会員募集枠)	24名 (12名)	制限なし	
1施設あたりの申込制限	無し		
当日参加	空きがあれば可		
参加費	無料		

WS-02		小児科外来でのきょうだい関係における諸問題への対応	
[リーダー]	荒川 明里 (あおぞら診療所うえの)		
[筆頭サブリーダー]	三平 元 (ひがしまつど小児科)		
<p>きょうだい関係は幼少期以降長く続き、直接的および間接的に影響を与えます。支え合う一方で、親の関心を得るための競争や嫉妬など、相反する感情を経験することもあります。年齢差、性別、家族構成、疾病や障害の有無など、きょうだいの関係性に影響を与える事情は多様です。小児科外来では、病児のきょうだい児も含め、様々なきょうだいの関係を目の当たりにする機会がしばしばあり、きょうだい育児そのものに不安や悩みを抱える保護者も多いです。きょうだいである本人が子どもである場合、きょうだい自身は声を上げにくいという課題もあります。私たちは2023年4月10日(きょうだいの日)に(一社)日本きょうだい福祉協会(https://siblingjapan.com/)を設立し、あらゆる立場の「きょうだい」にとっていつでもどこでも安心して暮らせる社会の実現を目指して活動しています。本ワークショップは第32回・第33回年次集会上に引き続き開催します。事前事後アンケートから参加者の意識調査を行い、当日は前半は事例を交えながらきょうだい支援の取り組みについて学び、後半は5~6名構成のグループディスカッションを行い小児科外来で私たちができるきょうだい支援について参加者と共に考えます。当ワークショップではGoogleグループのメーリングリストを用い、事前アンケート調査や、当日の資料の提供、質問を受けたりする関係で、ワークショップへの申込みに際してはGoggleアカウントをお持ちの場合はG-mailでの登録がスムーズです。携帯電話のみのメールアドレスは推奨しません。</p>			
開催形式	問題解決型と研修型の混合型	参加可能な職種 / その他の条件	
定員 (4/14~4/16の 正会員募集枠)	24 (12名)	職種を問いません、学生も可	
1施設あたりの申込制限	1施設3名まで		
当日参加	空きがあれば可		
参加費	無料		

WS-04		いなか小児科医の求める「学び」について考えよう	
[リーダー]	橋本 裕美 (橋本こどもクリニック)		
[筆頭サブリーダー]	松浦 伸郎 (松浦医局)		
<p>少子化に伴い、交通の便の良い都市部と、そうでないいわゆる「いなか地域」との格差が一層拡大している。いなかにおける小児科医の課題を前回のWSで話し合い、医師の年齢や地域により多種多様な状況が明らかになった。小児人口が圧倒的に少なく地域の開業医としてほぼ内科医となることもある一方で、地域でも専門性を深め、発達支援や在宅医療にも積極的なところもあった。人口減少に伴い外国籍の住民の増加も報告された。小児人口の少ないいなかの小児科診療所の継承は難しく、医師の高齢化による学校医や救急当番を担える人材不足は多くの地域で今後一層問題となることと思われた。</p> <p>今回のWSでは、「学び」を取り上げて検討したい。開業医は自主的な生涯教育が必要だが、交通の便が悪いことや代診医がないことで講演会へ参加が困難なことも多い。この点はオンラインやオンデマンドの講演が増えたことでやや解決したかもしれない。その他にもメーリングリストやWeb上での医局、e-learningを活用している先生もあるだろう。</p> <p>一方学びたい内容も、気軽に病院に紹介できる都会とは異なるのではないだろうか。いなかであっても様々な診療スタイルの医師があり、先進の医療を積極的に取り入れたい、臨床能力を高めるために昔からのベテラン医師の経験学びたい、皮膚科、耳鼻科、外科など他領域の知識も深めたいなど個別に様々な意見が予想される。いなかであっても有効な学習方法や、有益な学習内容を整理することは、これから若い医師が地方で働く際の参考にもなりえると考える。多くのいなか小児科医の参加をお願いします。</p>			
開催形式	問題解決型	参加可能な職種 / その他の条件	
定員 (4/14~4/16の 正会員募集枠)	20名 (12名)	医師	
1施設あたりの申込制限	無し		
当日参加	空きがあれば可		
参加費	無料		

WS-05		子どもの姿勢について ~小児科医、整形外科医、理学療法士の視点から考える指導方法~	
[リーダー]		千葉 智子 (上高田ちは整形外科・小児科)	
[筆頭サブリーダー]		須貝 雅彦 (おひさまクリニック)	
<p>2024年は高山にて【子どもの姿勢の崩れや歩き方、気になりませんか?家庭でも学校でもできる運動発達に基づいた運動を実際に行ってみましょう】というテーマでワークショップを行いました。参加者と呼吸や姿勢の確認を行い、身体を動かしながら体性感覚を整え、その後の変化を確認しました。また、子どもの年齢による運動の選択方法や目安時間などについても座学で知識を共有しました。</p> <p>昨年の経験を踏まえ、その内容を踏襲しながら、今年は実際の診療場面での実例を提示しながら、各分野での考え方や対応方法、連携等を考えていきたいと思います。また、身体に負担のない「適切な姿勢」を実際に体験していただきたいと考えております。</p>			
開催形式	問題解決型と研修型の混合型	参加可能な職種 / その他の条件	
定員 (4/14~4/16の 正会員募集枠)	24名 (12名)	制限なし	
1施設あたりの申込制限	1施設2名まで		
当日参加	空きがあれば可		
参加費	300円(印刷代)		

WS-06		小児科外来のトリビアをみんなで共有しませんか? ~目指せ!小児科外来ベストトリビア~	
[リーダー]		日高 啓量 (医療法人 H&H ひだかこどもクリニック)	
[筆頭サブリーダー]		赤尾 智子 (医療法人健児会 矢嶋小児科小児循環器クリニック)	
<p>「人間は無用な知識が増えることで快感を感じることができる唯一の動物である」 SF作家のアイザック・アシモフの発言とされています。トリビアの泉~素晴らしきムダ知識~というテレビ番組をご存知ですか? 2002年10月から2006年9月までフジテレビ系列でレギュラー放送された後、2007年から2012年まで特別番組として不定期に放送されていた雑学バラエティ番組です。今回のWSで、生きていく(小児科外来診療をしていく)上で何の役にも立たない無駄な知識、しかし、つい人に教えたくてしまうようなトリビア(雑学・知識)、を参加者のみなさんから募り、高松の会場でベストトリビアを決めたいと思います。これまでWSの参加は数居が高いな~と思われていた方も、是非お気軽にご参加下さい。職種・年齢は問いません。それぞれのトリビアを持ち寄って参加してもらう予定です。</p> <p>*英語にある「trivia(「トリビア」)」とは、日本語で「雑学・些末な」という意味です。 <当日の流れ(予定)></p> <p>1グループ4~6人で、6グループを作ります。前半では、各自が持ち寄ったトリビアをグループ内で発表し、その内の1つをそのグループのトリビアとして選びます。選んだトリビアを、全体へ向けてプレゼンするための準備をします。プレゼンは、ボール紙を使用したフリップ形式で行います。</p> <p>後半では、各グループが趣向を凝らしたプレゼンを発表し、WSとしてのベストトリビアを決めます。参加者全員が審査員となり、自分のグループ以外の発表されたトリビアに投票ができます。審査の際にアプリを使用しますので、スマートフォンをご持参ください。参加費は、1人500円です。(発表用の文房具やベストトリビアに選ばれたグループへの賞品代にあてられます)</p> <p>このWSの目的は、トリビアを共有しながらグループ毎の親睦を深めると発表するプレゼン力の向上です。高松でお会いするまでの間、日々の診療でトリビアを探してみてくださいね。</p>			
開催形式	問題解決型	参加可能な職種 / その他の条件	
定員 (4/14~4/16の 正会員募集枠)	36名 (6名)	制限なし	
1施設あたりの申込制限	1施設2名まで		
当日参加	空きがあれば可		
参加費	500円(紙、文具、賞品代)		

WS-07		子どもの貧困に気づき支援するために part 9	
[リーダー]		和田 浩 (健和会病院小児科)	
[筆頭サブリーダー]		佐藤 洋一 (和歌山生協病院)	
<p>子どもの貧困問題に心を痛め、自分にはできないことではないかと考える医療者は数多くいます。しかし「小児医療現場で子どもの貧困は見えにくい」「気づいたとしても自分に何ができるかわからない」という方も少なくありません。そうした「子どもの貧困問題初心者」の方を主な対象に「どうすれば気づけるか」「どんな支援ができるか」を考えるワークショップです。</p> <p>このWSは2011年「子どもの貧困を考える」として始めました。当初はリーダー自身、貧困が見えず、どうしたらいいかわからなかったため、みんなでそれを考えようとしたものです。2016年からは現在の形で「初心者向け」として行っています。そしてこれとは別に「貧困と子どもの健康研究会」をリーダーらが実行委員となって開催しています。</p> <p>もちろん何らかの取り組みを行っている方の参加も大歓迎です。そうした経験は参加者にとって大きな学びとなります。</p> <p>事前アンケートで参加者のニーズを把握し、入門レクチャー・事例検討・グループワークといった形で行いたいと思っています。</p>			
開催形式	研修型	参加可能な職種 / その他の条件	
定員 (4/14~4/16の 正会員募集枠)	24名 (10名)	制限なし	
1施設あたりの申込制限	無し		
当日参加	空きがあれば可		
参加費	無料		

WS-08		「他所はどうしている?」うちではこのように 予防接種しています。 Part 3	
[リーダー]		中村 豊 (ゆたかこどもクリニック)	
[筆頭サブリーダー]		崎山 弘 (崎山小児科)	
<p>予防接種は外来小児科の大事な仕事の一つです。接種間違いがないように各施設が工夫されてきました。しかしながら、多くの接種誤りが報告されています。皆さんの施設では、誤接種してしまった経験はありませんか? ワクチンそれぞれに対象年齢や接種間隔が異なり、いろいろの特例も作られて、落とし穴がいっぱいです。</p> <p>今まで同じWSを2回行ってきました。参加者の施設では、二重、三重にも誤り防止のための工夫や取り決めがされていました。それぞれ素晴らしいものですが、スタッフの数や接種時間設定などの問題もあり自施設でその取り組みができるだろうかという気持ちも持ちました。施設の実情に合わせた無駄のない予防接種外来を考えていきたいと思います。今回は外来小児科学会の会員の皆様にアンケートをお願いしています。その結果を踏まえ誤接種のない、かつ効率の良い方法を参加者の皆様と考えたいと思います。各施設での問題点を指摘しあい、その改善策を考えましょう。今までの2回は、接種風景を動画撮影していただきました。このため参加者の数に制限を設けていましたが、今回はグループディスカッションを通じて、誤接種の防止策を考えたいと思います。</p>			
開催形式	問題解決型と研修型の混合型	参加可能な職種 / その他の条件	
定員 (4/14~4/16の 正会員募集枠)	20名 (10名)	医師、看護師、薬剤師、事務職	
1施設あたりの申込制限	1施設2名まで		
当日参加	空きがあれば可		
参加費	無料		

WS-09 親と子への服薬支援 その9 ～舌下免疫療法のアドヒアランス向上のために～		
[リーダー] 上荷 裕谷 (すずらん調剤薬局)		
[筆頭サブリーダー] 齋藤 栄二 (あおば薬局)		
<p>小児医療において薬物療法は大切な治療手段のひとつであり、患児と保護者そして医療者にとって“くすり”は必要不可欠なものである。過去のWSでは服薬を拒む事例のアセスメントやカウンセリング、服薬動機を高めるための指導や支援の手法を学び、一部薬剤についても協議してきた。昨年は参加者の“くすり”に関わるさまざまな疑問や悩みについて事前調査を実施し、そこからテーマを絞ってグループワークにて検討した。その後事前調査で得られた服薬支援における疑問や悩みについて、リーダーから参加者に対してレクチャーを実施した。その結果、参加者アンケートにおいては満足度も含めて高い評価をいただいた。</p> <p>そこで今年は昨年の総論的な内容から変更して薬剤各論で実施したい。今回は花粉症患者の増加および低年齢化、さらにはガイドラインでの推奨に伴って小児における処方が増えている舌下免疫療法の薬剤について検討したい。</p> <p>舌下免疫療法は従来の対症療法とは異なる根治療法ではあるが、治療に対する不安を抱く保護者や毎日継続して服薬する手間だけではなく、舌下錠特有の「1分間保持」「5分間は飲食を控えること」「運動や入浴の制限」など、服薬に際してのルールがいくつかあることも保護者や患児本人にとっては面倒と感じられることがある。また効果がすぐに感じられないことによるアドヒアランスの低下も課題である。副反応としての口腔内違和感などで服薬を自己中断する例もあれば、副作用で継続を中断せざるを得ない例もあり、継続においては患児親子へのフォローが欠かせない治療法であると考えられる。</p> <p>そこで舌下免疫療法を適切に継続してもらうために、各施設における取り組みや患者支援を紹介すると共に、舌下免疫療法導入から継続に際して困っていることや悩みなどを互いに持ち合って討議したい。より良い舌下免疫療法を各施設で実施できるよう、すぐに活用できる支援の方法をプロダクトとして作成したい。</p>		
開催形式	問題解決型	参加可能な職種 / その他の条件
定員 (4/14~4/16の 正会員募集枠)	30名 (5名)	制限なし
1施設あたりの申込制限	1施設1名まで	
当日参加	空きがあれば可	
参加費	無料	

WS-10 心理職の事例から考える小児科診療所 における子どもの心の支援(1)		
[リーダー] 芦谷 将徳 (福岡大学 / おおやこどもクリニック)		
[筆頭サブリーダー] 原口 喜充 (近畿大学九州短期大学 / くぼたこどもクリニック)		
<p>【目的】 本ワークショップは、小児科診療所で心理職が関与した実際の事例を通じて、子どもの心の支援に対する理解を深めることを目的としています。近年、神経発達症や不登校といった課題が増加する中、医師や看護師とともに心理職が果たす役割はますます重要になっています。しかし、心理職のカウンセリングや検査は密室で行われることが多く、目に見えない心理・発達を扱うということもあり、その取り組みや視点が見えにくいという課題があります。さらに、活動内容や導入の意義は施設によって異なり、十分に共有されていないのが現状です。本ワークショップでは、事例を通じて心理職が他職種と連携してどのように子どもの心の支援を行うかを明らかにし、他施設での展開に役立てることを目指します。小児科診療所での心理職の活動について、今後も継続的なワークショップの開催を検討しています。</p> <p>【内容】 前半では、複数の小児科診療所における心理職の取り組みを紹介します。診療所の規模や地域性に応じた心理職の役割の違いに着目し、導入の経緯、業務内容、保護者や子どもとの関わり方について具体的に説明します。また、経営面の視点も交え、心理職を配置する意義を多角的に考察します。</p> <p>後半では、具体的な事例を基に、それぞれの立場からのアプローチについてディスカッションを行います。参加者の視点と心理職の視点を同じケースの捉え方を通じて比較し、心理職の視点の特徴を明らかにすることを目指します。このプロセスを通じて、心理職が子どもや家族とのように寄り添い、多職種と連携しながら問題解決を図るのかを具体的に理解します。</p> <p>【期待される成果】 参加者は、小児科診療所における心理職の役割や業務内容、視点について深く理解することができます。また、自施設で心理職を導入・活用する際の参考となる知見を得られます。本ワークショップを通じて、心理職が現場で果たす役割を再認識し、多職種連携の新たな可能性を見出す機会となることを期待しています。</p>		
開催形式	問題解決型と研修型の混合型	参加可能な職種 / その他の条件
定員 (4/14~4/16の 正会員募集枠)	30名 (15名)	医師、看護師、事務職、助産師、臨床心理士
1施設あたりの申込制限	無し	
当日参加	空きがあれば可	
参加費	無料	

WS-11 患者さんへの情報発信どうしていますか？ 平成は手渡しリーフレット、令和はSNS？		
[リーダー] 田中 秀朋 (あかちゃんこどものクリニック)		
[筆頭サブリーダー] 原木 真名 (まなこどもクリニック)		
<p>2020年のCOVID-19流行以前は、有志が一堂に集まっているリーフレットの作戦会議を開いていました。全国津々浦々の小児科医や歯科医師が集まって、患者さんに手渡しリーフレット内容を吟味し、三つ折りにした紙製のリーフレットを作成しました。ワクチンギャップが大きい時には、任意ワクチンの大切さをワクチンごとに考えました。おたふくかぜ、肺炎球菌、ヒブ、B型肝炎など、それぞれ得意な面々が意見をもち寄って作ったものでした。離乳食、禁煙外来などいろいろな分野で一般の方にわかりやすいものを作りました。現在、患者さんの情報収集はもっぱらスマートフォンです。インターネットを利用して医療機関のホームページ、LINE、YouTubeなどで積極的に情報発信している方がいます。一方で、インターネットでは患者さんたちが正しい情報にたどり着いているか、心配になることもあります。そこで、皆さんで現在の課題、情報発信のあり方、方法について語り合いませんか？ワイワイガヤガヤ、楽しくやりましょう！</p>		
開催形式	問題解決型	参加可能な職種 / その他の条件
定員 (4/14~4/16の 正会員募集枠)	30名 (15名)	医師、歯科医師
1施設あたりの申込制限	1施設2名まで	
当日参加	空きがあれば可	
参加費	無料	

WS-12 育ちの背景から考える親子支援		
[リーダー] 松原 徹 (城東こどもクリニック)		
[筆頭サブリーダー] 澤田 敬 (NPO 法人カンガルーの会)		
<p>子どもの様々な問題行動から育児困難を抱える親がいます。もちろん発達障害の特性から来る行動のこともありますが、親子の関係性のボタンの掛け違いが子どもの行動に影響し、問題行動を引き起こしていることがあります。そして往々にしてその背景に親自身の育ちの問題が隠れています。</p> <p>児童精神科医のセルマ・フライバーグという先生が「赤ちゃん部屋のお化け」ということを言いました。幼少期の虐待など辛い過去を背負った親が赤ちゃんの泣き声を聞いたとき、言うも言われぬ不安を覚えることがあります。それを「赤ちゃん部屋のお化け」と呼んだのです。お化けとは目の前のわが子に投影された自分自身の影なのです。子どもは親の不安を敏感に感じ、泣き出します。癇癪を起こし、ますます育てにくい子になります。親は苛立ち、子どもを叩いてしまうかも知れません。いわゆる虐待の世代間連鎖です。</p> <p>このWSではまず最初にジェノグラムの作り方を学びます。そして事例を元に3世代のジェノグラムを作成し、それぞれの関係性を想像、理解し、それをどのように親子支援に繋げていくかを参加者全員でディスカッションしましょう。</p> <p>※ジェノグラムとはある人物（ここでは子ども）を中心とした家族関係を理解するために作成される系図のことを言います。</p>		
開催形式	問題解決型と研修型の混合型	参加可能な職種 / その他の条件
定員 (4/14~4/16の 正会員募集枠)	50名 (10名)	制限なし
1施設あたりの申込制限	1施設2名まで	
当日参加	空きがあれば可	
参加費	無料	

WS-13		診療や1歳6か月児健診で役立つ『子どものあしとくつの基本知識と活用法』	
[リーダー]	吉村 真由美 (公財) 日本学校体育研究連合会、日本靴医学会小児の足と靴を考える委員会		
[筆頭サブリーダー]	谷村 聡 (たにむら小児科)		
<p>【趣旨】 幼児期から児童期の怪我のトップは常に「転倒」であり、その原因の一つに、足や体幹の発達に合わせた靴の適正な使い方(選び方や履き方)ができていないことによる姿勢の崩れや歩行時時のバランス不全が考えられる。そもそも日本では足と靴の基本情報が義務教育で扱われていないため、大多数の大人が知識として無知な状態で不適切な靴を与え、密着不全な履き方をさせていることが挙げられる。そこで本WSでは、足と靴の基本情報と安全との関係性を学び、その予防のための足と靴の実技を学会員相互で学ぶことで、参加者が診療や健診の場で指導に役立つ力をつけてもらうことを目的としている。</p> <p>【内容】 実技を効果的に導入した内容(1)公立保育園における乳幼児への靴教育の事例報告から学ぶ、(2)実技1・普段の履き方に疑問を持つ「正しい靴の履き方」体験、(3)実技2・足の計測⇒適合靴サイズを調べる「正しい靴サイズを知る」体験、(4)実技3・適合した靴で適合サイズの足感覚を体験する「足に合った靴の実感を知ることの大切さ」体験、(5)基本知識を学ぶ座学の5つより成る。なお、実技を行わずに座学だけを学んでも、真からの必要性が腑に落ちないため医療者側の行動変容は起きにくく、学びが表面的な知識レベルにとどまり、医療現場での活用に至らないため。実技を行って大切さが実感でき、診療時での効果的な指導の実施につながりやすいことが期待できるので、実技は不可欠である。</p> <p>【継続して開催したい理由】 医療者であっても、足と靴に関する基本知識がないのが現実。そのため、受診時に患児から足の訴えがあっても、靴に注目できず原因を見逃しているケースが多くあることが危惧される。たとえば簡単な靴の履き方指導をおこなったり、足に合っていない靴の指摘をするだけで多くの足の症状を軽減できたり、基本情報の啓発することで無用な痛み、怪我の予防が期待できるため。</p>			
開催形式	問題解決型と研修型の混合型	参加可能な職種 / その他の条件	
定員 (4/14~4/16の 正会員募集枠)	50名 (25名)	正会員のみ:医師、看護師、薬剤師、事務職、保育士、助産師、臨床心理士	
1施設あたりの申込制限	1施設2名まで。会員に限る		
当日参加	不可		
参加費	無料		

WS-14		吸入がうまく使用できないどのように解決していますか?	
[リーダー]	池田 貴司 (サンシャインスター薬局)		
[筆頭サブリーダー]	浦上 勇也 (スター薬局 大野原店)		
<p>吸入薬は内服薬と比べて少ない薬剤量で効果を発揮し、局所的に作用する為、副作用が少なく治療効果を得やすい投与方法です。</p> <p>その反面、手技や使用方法に問題があると十分な効果が得られにくいというデメリットがあります。特に小児においては剤形選びが難しく、うまく使用できなかった事が多くあると思います。</p> <p>本ワークショップでは、経験したトラブルや解決方法について情報交換を行い、吸入薬を処方する際や使用方法の指導に活かせるようになりたいと考えます。</p> <p>また、希望される方は自作の吸入スプレーの作製を実施したいと思っています。</p>			
開催形式	問題解決型	参加可能な職種 / その他の条件	
定員 (4/14~4/16の 正会員募集枠)	24名 (12名)	制限なし	
1施設あたりの申込制限	無し		
当日参加	空きがあれば可		
参加費	無料		

WS-15		日本にも社会小児科学を根付かせよう	
[リーダー]	武内 一 (佛教大学社会福祉学部)		
[筆頭サブリーダー]	佐藤 洋一 (和歌山生協病院)		
<p>国際社会小児科学小児保健学会の前の会長ニック・スペンサーらは、社会小児科学を定義していますが、私の方でまとめると、子どもの健康にアプローチするのですが、小児科学の今までの範囲を超えて、多くの異なる分野の皆さんと一緒に補い合いながら進める学問分野です。子どもの健康と発達を前に進めるために身体的精神的側面だけではなく、社会的な面も合わせて、社会、環境、学校、家族のそれぞれの枠組みの中で子どもの健康を考えます。海外のいくつかの国では、小児科の専門分野として位置づけられています。</p> <p>2023年からアメリカのジョン高山さん(日本語堪能です)にもZoomでご参加いただき、社会小児科学の考え方を日本に根付かせるためのWSを開催してきました。例えば、困っている家族を社会資源に繋ぐことは重要だけれど、臨床の現場で気づけるのかなあ、気付けても社会資源に限られる問題もありそう。・そういったみなさんの現場の悩みを共有し合い、社会小児科学という分野が持続した学問分野として受け入れられるように、イメージを共有していけたらいいなと思っています。健康の社会的決定要因(SDH)の視点からも、子どもの健康に対するグローバルで全人的学際的アプローチである社会小児科学への理解を深めていくことは大事だと思っています。ぜひ、一緒に新しい小児科学の分野を根付かせていきましょう。2025年も、医師に限らず多職種のみなさんご参加で、社会の中で子どもたちをみる眼を養い、その考え方を広げたいと思っています。</p> <p>ご興味をおもちいただいたあなた!ぜひワークショップにご参加いただき、一緒に社会小児科学の視点から子どもたちを診る、見る、見る「眼」をもって、子どもたちに接してみよう。ちょっとしたおやつを各地から持ち寄って、ワイワイ楽しく進めていけたらと思っています。</p>			
開催形式	問題解決型と研修型の混合型	参加可能な職種 / その他の条件	
定員 (4/14~4/16の 正会員募集枠)	20名 (10名)	制限なし	
1施設あたりの申込制限	無し		
当日参加	空きがあれば可		
参加費	無料		

WS-16		起立性調節障害に対する漢方治療—QOL向上のためにできること—	
[リーダー]	森 蘭子 (森こどもクリニック)		
[筆頭サブリーダー]	坂崎 弘美 (さかざきこどもクリニック)		
<p>我々は、小児科プライマリケア漢方治療を広めることを目的としたワークショップを開催してきた。この数年は、対象を医師に限定し、処方選択について学んでいる。これまで取り上げたテーマは、発達障害、アレルギー疾患、家族療法、風邪(抗菌薬適正使用)、睡眠障害、心の問題、COVID-19を含むウイルス性呼吸器感染症である。</p> <p>例年このWSでは、参加者間のディスカッションを大切にしている。初心者からの漢方診療についての質問、経験者の有効例の報告、処方のコツについてのアドバイスなど、活発な意見交換や情報提供が行われている。小児領域で漢方のニーズは高いが、具体的に学ぶ機会は少なく、本WSが小児漢方の知識を習得する場となることを願っている。</p> <p>今年は、起立性調節障害を取り上げる。頭痛、めまい、倦怠感、腹痛、嘔吐、食欲不振、朝起きられない、不眠など多様な症状が起こり、不登校の原因となることも多い。小児科プライマリケア医が相談を受ける機会が増加しているが、西洋医学的治療では改善が乏しく、漢方のよい適応である。起立性調節障害に関する診療は、時間を費やし、本人や保護者の訴えに耳を傾け、根気強く対応に当たる必要がある。漢方薬の処方とともに、睡眠・食事などの生活指導、意欲を持たせる言葉かけなども重要である。</p>			
WS実施計画			
参加者: 医師に限定			
事前学習: ミニレクチャー動画・資料配布、zoomミーティング			
当日: グループ分け。模擬症例を提示し、自分自身で診療を行うことを想定して、問診、診察などで確認すべきことを考えていく。グループで考えた処方を発表しながら、全体ディスカッションで考察を深めていく。漢方処方の答えは一つではなく、色々な考え方に触れることも良い勉強となることだろう。			
目標: 起立性調節障害の症例に対し、患児や保護者の訴えに寄り添いながら、適切な漢方治療を提案し、患児のQOL向上、治療を目指す診療を行うことができる			
開催形式	研修型	参加可能な職種 / その他の条件	
定員 (4/14~4/16の 正会員募集枠)	20名 (5名)	医師	
1施設あたりの申込制限	1施設2名まで		
当日参加	不可		
参加費	無料		

WS-17 集まれ!メディカルスタッフ♪～みんなで語ろう! メディカルスタッフの悩み事～(その2)	
[リーダー]	秦 一裕 (ぼよぼよクリニック)
[筆頭サブリーダー]	高橋 美智子 (おひさまクリニック)
<p>日々の診療の中で、「こんな時はどうすればいい?」「他の施設ではどう対応しているんだろう」と悩むことは少なくありません。本ワークショップでは昨年に引き続き、日々の業務での悩みを共有し、解決へのヒントを見つける事を目的とします。</p> <p>参加者同士で気軽に話し合い、経験や工夫を持ち寄ることで、業務の質を向上させる工夫や実践的な知識を得られる場を提供します。また、情報共有を通じて、共通の課題に対する新たな視点を見つける事も期待されます。</p> <p>昨年のワークショップでは、多くの方から「他施設の工夫を知ることができた」「問題解決にむけて解決策を持ち帰ることができた」との声をいただきました。今回もより実践的な議論ができるよう、参加者の皆様とともに有意義な時間を作りたいと考えています。</p> <p>参加者全員がこのワークショップを育てていきましょう!</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回のワークショップでヒントや気づきが生まれ、明日から使えるアイデアを持ち帰っていただく ・実際、自院でトライしてみても得るものがあつたのか、追跡評価する ・年次集会における、メディカルスタッフのためのワークショップの意義を探る 	
開催形式	問題解決型
定員 (4/14~4/16の 正会員募集枠)	30名 (5名)
1施設あたりの申込制限	1施設1名まで
当日参加	空きがあれば可
参加費	無料

WS-19 明日からもっとうまくなる小児科での禁煙支援	
[リーダー]	牟田 広実 (いづかこども診療所)
[筆頭サブリーダー]	野田 隆 (のだ小児科医院)
<p>本ワークショップは、タバコ問題検討会主催で2008年から継続開催している、「小児科外来で効果的な禁煙支援の声かけができるようになること」を目標とした研修型のワークショップです。加熱式を含むタバコおよび禁煙支援の基礎知識のレクチャーと、模擬患者さんに対する禁煙支援のシミュレーションの2部で構成されています。まず、禁煙支援の経験豊かな講師陣によるタバコおよび禁煙支援の基礎知識のレクチャーによって、初めての方でもタバコおよび禁煙支援に関する知識を深めていただけます。続いて行われるシミュレーションでは、禁煙支援をよりリアルに体験していただけるよう、元喫煙者で現在は禁煙支援を継続的にしている方々に模擬患者さんとなつていただき、小児科での禁煙支援を想定したシナリオに基づいて、実際に禁煙支援を体験していただきます。シミュレーションは不安という方であっても、禁煙支援の経験豊かなサブリーダーをファシリテーターとして配置し、効果的な学習を支援します。これまでに参加していただいた方からは、「完成度の高いワークで、喫煙者の気持ちを理解しながら禁煙を勧めるノウハウを着実に身につけることができた。」などの嬉しい声を頂いています。禁煙支援は初めてという方から、もっとブラッシュアップしたいという方まで、幅広い参加をお待ちしております。</p>	
開催形式	研修型
定員 (4/14~4/16の 正会員募集枠)	16名 (8名)
1施設あたりの申込制限	無し
当日参加	空きがあれば可
参加費	無料

WS-18 タイムカードから勤怠管理ソフトへ その2	
[リーダー]	矢嶋 茂裕 (矢嶋小児科小児循環器クリニック)
[筆頭サブリーダー]	和田 映子 (和田クリニック)
<p>紙のタイムカードを使い、労務管理や給与計算を外部委託している施設も多いと思われます。勤怠管理ソフトを導入することでこれらの管理をIT化すると同時に費用削減にもつながります。一昨年のWSでは複数の勤怠管理ソフトを参加者に割り当てて試用しましたがほとんどの参加者が最終目的まで到達できませんでした。その反省を踏まえて、今回は1つのソフトに絞って、これからチャレンジしてみたい参加者を募ります。</p> <p>使用するソフトは、King of time です。このソフトは1名あたり月額300円でタイムカードの打刻から給与計算、有休などの勤怠管理までできます。初期設定から打刻、有休管理、給与計算までできることを目指します。</p>	
開催形式	問題解決型
定員 (4/14~4/16の 正会員募集枠)	24名 (12名)
1施設あたりの申込制限	1施設1名まで
当日参加	空きがあれば可
参加費	500円(プロジェクターとWifiの手配)

WS-20 明日からでも実践できる診療所の子小児看護 ～私の看護、みんなの看護を集めて話しませんか～	
[リーダー]	二星 淳吾 (二星こどもクリニック)
[筆頭サブリーダー]	村川 園美 (奈良学園大学保健医療学部看護学科・たかこどもクリニック)
<p>診療所は地域住民の生活に密着し、疾病の初期治療のみならず小児科診療所は予防接種や健診から育児支援まで多くの機能を有しており、看護師もこの機能を提供するために役割を担っている。この役割を担うためには、看護は多様な状況に対応し、内容を豊かに提供する必要があるのである。これには質の維持向上が必要であり、個人や看護職間での研鑽は重要である。しかし、私たちはしばしば日々の看護を振り返りや、文献や外部から情報を得ることに困難を感じることもある。この背景には、診療所の看護師は入院施設のある外来の配置基準より少なく、常勤職員数2~3人で構成されている。このため、看護実践を複数の看護師間で共有し、自身の看護を評価・修正の機会も持ちにくく振り返る機会も得にくい。また、小児看護の診療所の実践を知る機会やエビデンスをまとめた文献も少なく情報が得にくい。診療所の子小児看護の看護師が抱える課題</p> <p>自身の看護実践を共有する機会が少ない ・新たな知識や実践を知る機会が少ない</p> <p>ワーキングで得られること</p> <p>今回、小児科診療所の看護師が集うことで、他施設で行われている看護を知る機会となり、日ごとの実践を振り返るきっかけや新たな視点や方法を知る機会となる。</p> <p>方法：話題提供とグループワークによる意見交換</p> <p>進行内容：(150分)</p> <p>5分 導入 司会 二星</p> <p>45分 話題提供 実践報告</p> <p>・「療養上の指導」発表担当者15分 ・「苦痛への支援」発表担当者15分</p> <p>・「育児支援」発表担当者15分</p> <p>10分 休憩・参加者移動</p> <p>60分 グループディスカッション(上記の実践項目から参加者をグループ分け)</p> <p>・10分 自己紹介</p> <p>・50分 グループワーク(参加者の実践の発表)</p> <p>20分 発言内容をまとめてグループ発表 質疑応答と意見交換まとめおよび、アンケート説明と配布 5分 二星</p>	
開催形式	問題解決型と研修型の混合型
定員 (4/14~4/16の 正会員募集枠)	21名 (10名)
1施設あたりの申込制限	無し
当日参加	空きがあれば可
参加費	無料

WS-21		BLWをヒントに! 0~2歳の食行動を育む補完食支援	
[リーダー] 江田 明日香 (かるがも藤沢クリニック)			
[筆頭サブリーダー] 尾形 夏実 (湘南藤沢徳洲会病院)			
<p>当年次集会において、2022年から3年連続で赤ちゃん主導の離乳「Baby-Led Weaning (以下 BLW)」に関するワークショップを行った。参加者の方には、BLWは単に“手づかみ食べ”ではないこと、また子どもが主導して食事をするこの本質的な概念を認識していただけたことと思う。一方で BLW は、従来勧められてきたスプーンでおかゆを与える離乳方法と異なる点があり、参加者からは実際のように支援したら良いか悩むといった声も聞かれた。</p> <p>我々のクリニックでは、子どもの食事に関する様々な相談に対応するため、親子クラス (こはんクラス) での情報提供や、食べない子どものための外来診療 (こはん外来) を行っている。多職種で行う食事支援の軸にしているのが、BLW である。食事は、各家庭の考え方や環境、子どもの発達段階など、さまざまなことが影響し合うため、当たり障りのない助言では伝わりづらいことがある。養育者の声を聞き、その家庭にとって、いつ、どこで、なにを、どうやって食べるのか最善の食事になるのか、発達や栄養の視点も織り交ぜながら具体的な助言ができるよう心がけている。</p> <p>今回のワークショップでは、当院の食事支援について紹介するほか、グループワークで参加者が持ち寄った事例について考察し、具体的な支援方法を話し合う予定である。食事支援は一般的な子育て支援と通底する点が多く、小児科の得意とするところである。本ワークショップが参加者みなさんの子育て支援の一助になれば幸いである。</p> <p>なお参加者には、事前準備として、各々が実際に相談された事例について簡単なまとめ(A4紙1枚のシートに記入する程度)を作成していただく予定である。過去のBLW ワークショップに参加していない方や BLW について復習が必要な方は、予め関連書籍をお読みいただきご参加願いたい。</p>			
開催形式	問題解決型と研修型の混合型	参加可能な職種 / その他の条件	
定員 (4/14~4/16の 正会員募集枠)	24名 (12名)	医師、看護師、保育士、助産師、 臨床心理士	
1施設あたりの申込制限	1施設2名まで		
当日参加	不可		
参加費	無料		

WS-22		受けて学んでそして活かす ~小児診療初期 対応を学んで現場の力をパワーアップ~	
[リーダー] 鈴木 研史 (竜美ヶ丘小児科)			
[筆頭サブリーダー] 種市 尋宙 (富山大学)			
<p>皆様は、JPLS コースにこれから参加する予定、どんなコースかを知りたくて、復習や知識の再確認をしたくて、中には、ここで JPLS を初めて知ったという方かもしれません。私は、クリニックに来院する多くの軽症の子どもたちの中の緊急性又は重症度が高い子どもたちを迅速かつ適切に対応できている日々悶々と診療を行っていたところ、JPLS コースを知り、コンセプトと内容の素晴らしさを体験し、小児科クリニックにうってつけのコースと実感しました。</p> <p>JPLS コースは、病院とクリニックの小児科医が、一日一緒に様々な評価や対応方法、シナリオに取り組むことで、一体感が生まれ、普段なかなか聞けないことが聞けたり、症例検討会等とは違った時間を過ごすこともできます。</p> <p>以前、私の地区で開催したときは、このコースを紹介する時間をいただいたことが、多くの先生方の参加に繋がり、「参加して良かった」「診療の振り返りができた」「急変時の対応に自信ができた」「繰り返し勉強する機会が欲しい」等の感想をいただき、今回のワークショップを企画しました。その後、夜間急病診療所では、シミュレーション形式の研修を行い、同じ考えのもと対応することで指示が統一され、スキルアップにも繋がりがスタッフに好評で毎年開催しています。園・学校での啓発や研修など、クリニック内だけでなく外でも様々なところで活用できます。</p> <p>JPLS って「どんなコース?」「試験されるの?」等々、参加を迷われている先生!JPLS の重要性和コースを少し体験していただくプログラムです。さらに、診療所では医師とパラメディカルとの連携は必要不可欠です。このため、本コースでは参加できない看護師もクリニックの医師と一緒に勉強ができれば参加できます。この機会と一緒に勉強しましょう。</p> <p>コースでお会いできることを楽しみにしています。また、このコースを受けて良かった、こんな場面で役に立ったということがありましたら、是非教えてください。</p>			
開催形式	問題解決型と研修型の混合型	参加可能な職種 / その他の条件	
定員 (4/14~4/16の 正会員募集枠)	20名 (10名)	医師、看護師(看護師は、医師 と参加または医師から参加を勧められた看護師、または病院看護師)	
1施設あたりの申込制限	無し		
当日参加	空きがあれば可		
参加費	無料		

WS-23		産後の女性を支えるために医療者が知っておきたいこと ~スムーズな子育てのスタートを切るために~	
[リーダー] 佐山 圭子 (佛教大学社会福祉学部)			
[筆頭サブリーダー] 千葉 智子 (上高田ちは整形外科・小児科)			
<p>現在は子育て環境が孤立しやすく、子育てする家庭は自分の子どもを育てるまで、子どもを見たことも触れたこともない、そのようなことが当たり前の社会である。</p> <p>出産は今も変わらず命がけで行われているものであり、医療者にしっかりと支えられて産前産後を過ごすことができると、非常にスムーズな子育てのスタートを切ることができる。</p> <p>しかしながら、医療者のサポートは、すべての人に行き渡っているとは言えない現状がある。女性たちが、ひとりの女性として大切にされることは、子どもを大切に育む力となる。</p> <p>医療者は知識とそしてあなたたいサポート、それらを母親となった女性たちへ提供できる一方で、誤った知識や古い価値観、何気ない言葉で母親を追い込んでしまうこともあるということを知っておかなくてはいけない。それほど、産後というのは、傷つきやすい繊細な時期だということ、産後の母親とつきあうことになる医療者は知る必要がある。</p> <p>今回のワークショップでは、産後ケア、母乳育児、身体の使い方、保護者(患者)の気持ちなど、産後の女性を支える医療者が知っておきたいことについて幅広く取り扱う。それぞれの専門家から発表があり、最後に質疑の時間を設ける。</p>			
開催形式	研修型	参加可能な職種 / その他の条件	
定員 (4/14~4/16の 正会員募集枠)	24名 (12名)	制限なし	
1施設あたりの申込制限	無し		
当日参加	空きがあれば可		
参加費	無料		

WS-24		小児科外来での家族対応を考えよう	
[リーダー] 涌水 理恵 (筑波大学)			
[筆頭サブリーダー] 松本 裕子 (香川県立保健医療大学)			
<p>過去の年次集会で同様のテーマでワークショップを開催しており、満席の申し込みをいただき、事後アンケートでの満足度も高い結果だった。今回も2020年に会員への調査で取り纏めた、小児医療現場の職員のための「暴言・暴力・嫌がらせ」対応に関する研修テキストをもちいて、参加申し込み者の日頃の外来での家族対応における困りごと / 工夫をヒアリングしながら、参加者全体でシェアし、外来での小児・家族ケアの質の向上をめざしたい。</p>			
開催形式	問題解決型と研修型の混合型	参加可能な職種 / その他の条件	
定員 (4/14~4/16の 正会員募集枠)	50名 (25名)	医師、看護師、薬剤師、事務職、 保育士、助産師、臨床心理士、 職種を問いません	
1施設あたりの申込制限	無し		
当日参加	空きがあれば可		
参加費	無料		